

ドキュメンタリー映画 2017年製作

原田 要 平和への祈り

元ゼロ戦パイロットの100年

殺さなければ殺される、
それが戦争です



語り：檀ふみ

<映画で観る 戦後80年特集@相生座>

2025年8月11日(月・祝)10時より上映会&トークイベント開催!

トークテーマ「若者と戦争 ～戦後80年の夏に思うこと～」

【ゲスト】大日方悦夫さん(近現代史研究家)、宮尾哲雄監督、現役高校生

【会場】長野相生座・ロキシー【料金】一般:1,600円 / シニア:1,000円 / 大学・専門学生:1,000円 / 3歳～高校生:800円

*チケットは7/28(月)11:00より窓口・オンラインにて販売開始

監督:宮尾哲雄 / 企画・製作:戦争体験を継承する会

10:00～ 映画上映

11:30～12:30 トークイベント

オンライン

チケットはこちらから



後援:長野県教育委員会 / 須坂市

特別協賛:  髙みすずコーポレーション / 鈴木清巳 / 茅野 實

ドキュメンタリー映画 2017年製作

原田 要 平和への祈り

元ゼロ戦パイロットの100年

太平洋戦争中、日本海軍の主力戦闘機「ゼロ戦」に搭乗し、多くの敵機を撃墜した名パイロット原田要。「殺さなければ殺される」—その思いで必死に戦い抜いた。戦後は幼児教育に情熱を注いだ一方、自らの戦争体験を後世に伝えることを使命とし、平和や命の尊さを訴えつづけた。

波乱に満ちた原田要の生涯を通して、あの戦争とは、あの時代とは何だったのかを改めて問い直す。



故 原田 要さん (写真右)

1916年上水内郡浅川村(現長野市浅川)生まれ。17歳で旧日本海軍に志願、ゼロ戦パイロットとしてハワイ真珠湾攻撃やミッドウェー海戦などに参加、敵機を次々に撃墜した。戦後、50年にわたって幼稚園を経営し、命の大切さを子供たちに教えた。晩年の25年間、講演会を通じて戦争の悲惨な実相を語り続けた。2016年5月死去(享年99)。

監督・構成・編集 宮尾哲雄 (写真左)

1950年長野県須坂市出身。
フリーディレクター。元NBS長野放送報道局長。記者やディレクターとしてドキュメンタリー番組を制作。代表作は「よみがえれ諏訪湖」「聴診器を温めて」「われに短歌ありき」など。日本民間放送連盟賞、ギャラクシー賞など受賞歴多数。

戦争とは何か？ 日本はなぜ戦争への道を歩んだのか？
この100年間の時代背景を豊富な記録写真や軍事資料によって明らかにする。

ワイツゼッカー(元ドイツ大統領)の演説

過去に目を閉じるものは現在にも盲目である



© 宮尾哲雄

<映画で観る 戦後80年特集@相生座>

2025年8月11日(月・祝)10:00より 上映会&トークイベント開催!

トークテーマ 「若者と戦争 ～戦後80年の夏に思うこと～」

10:00～ 映画上映
11:30～12:30 トークイベント

[ゲスト] 大日方悦夫さん(近現代史研究家)、宮尾哲雄監督、現役高校生

ゲスト兼コーディネーター 大日方悦夫さん プロフィール
須坂市出身。早稲田大学卒業後、社会科教師として長野県内の高校で教える傍ら、地域の近現代史研究に取り組む。県立高等学校長、大学講師など歴任。歴史学研究会、信濃史学会、日本平和学会会員。主な著書(編著):『満洲分村移民を拒否した村長一佐々木忠綱の生き方と信念』(第32回地方出版文化功労賞奨励賞受賞)、『長野空襲の真実』(以上、信濃毎日新聞社)、『長野県の歴史散歩』(山川出版社)、『資料が語る長野の歴史60話』(三省堂)、『幻ではなかった本土決戦』(高文研)、『韓国と日本の交流の記憶』(白帝社)、『戦争遺跡から何を学ぶか』(岩波書店)、など。現在、須坂高等学校龍胆会 龍胆学舎長を務める。



大日方悦夫さん



宮尾哲雄監督

<企画・製作> 戦争体験を継承する会
<http://sensou.suzaka.jp/>

<事務局> 〒382-0081 長野県須坂市横町415
(ギャラリープラスワン内)
TEL.026-214-7231

長野相生座・ロキシー

長野市権堂町2255(権堂アーケード通り中央)
TEL.026-232-3016